

# 京都教区時報

第108号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨  
 編集 京都カトリック教理センター 住所 京都市左京区仁王門通新高倉東入 Tel 761-9095

1986年 四旬節司教教書

## 一寸視点をかえて

—基本方針のこと—

東門 陽二郎

日本の教会の  
基本方針と優先課題

「わたしたちが神を愛したからではなく、神がわたしたちを愛して……おん子を遣わされた」(ヨハネ四の一〇)

わたしたちはこのことはを読むと、すぐにこの神の愛を知つたしあわせを思います。それは正しいことで

すが、一寸視点をかえて、そこにはもうひとつの大切な含みのあることも、考えていいと思います。

それは、わたしたちの神への愛と云うか、善意の努力の延長の上に、神からの愛があるのではないかと云うことです。

誤解させるかも知れないし、余り考えたくないことです。ですが、わたしたちの努力は狭くて不完全な人間の知恵にもとづき、しばしば罪の歪みさえ持つていると云うのは事実です。一方的な善意の押しつけとか、自分を持つている問題と向き合うのを避けるための、埋め合わせ的労力と云つたものも少くありません。

しかし、神はそうしたわたしたちの努力と向き合うのではなく、一方的にこれをすっぽりと包みこんで下さる。中から心をとかす形で愛して下さる。だから、罪のあがないとして、イエズスさまが来て下さったのです。

善意と善行を重ねるだけで自然にイエズスさまに出会うのではない。神さまの愛は大きすぎる。だからイエズスさまご自身も福音をのべ伝えよと云われたのではないかでしょうか。

神さまの愛は大きすぎる。人間の目からはそうです。でも正しいのは神さま。その神さまの愛をみんなが完全に受け入れる時にだけすべてがまともになる。それがこの世の終り、歴史の完成の時でしょうが、そちらに向う確実な道があります。

一人でも多くの人が洗礼の恵みを受け、ご聖体をいのちとして、ともに働くようになることです。どうすればいいのでしょうか。

でも祈りは現実からの逃避ではないし、現実、とくに罪に歪められた現実を見ないなら、罪のあがないとなつたイエズスさま、神のみことばから離れてしまします。日常の生活の中で、イエズスさまのいのちを生きたいなら、苦しんでいるもつとも小さなイエズスさまの兄弟(マタイ二五の四〇)を見放すことはできないのです。

いただいた信仰のお恵みを、一寸視点をかえて見直してみましょう。一人ではできないことを、協力してやつて行きましょう。それが基本方針の意図ではないでしょうか。

(河原町教会主任)

## 宣教司牧評議会報告

### —'87年度教区創立50周年の取組み—

12月13日

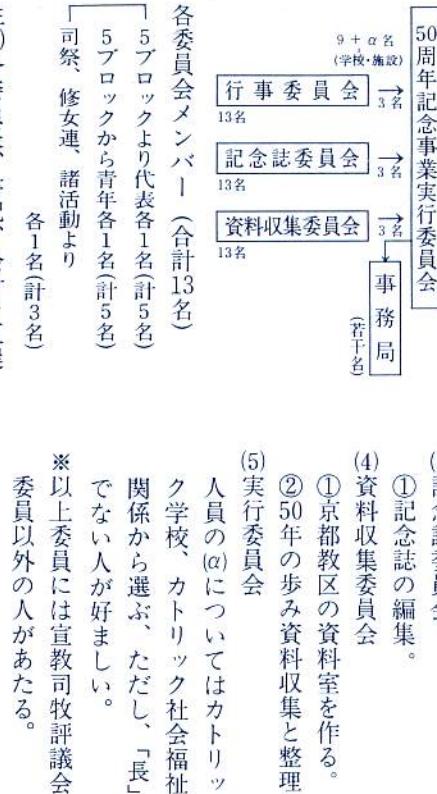
御存知の通り'87年は教区50周年を迎える。その方法を検討した結果次の様な理念と組織をもつて取り組む事にした。

#### 理念

京都教区のおいたち50年の見直し

現代社会における対話と刷新に向けて—

#### 組織について



(2) 3つの委員会を総合調整。  
(2) 行事委員会 執務、連絡。

(1) 1987年教区創立50年の歩みを見直す作業の推進と具体的な企画を考える。

(2) 1987年教区創立記念日の行事企画。

(3) 記念誌委員会  
① 記念誌の編集。

(4) 資料収集委員会  
① 京都教区の資料室を作る。

(2) 50年の歩み資料収集と整理

(5) 実行委員会  
人員の(a)についてはカトリック学校、カトリック社会福祉関係から選ぶ、ただし、「長」でない人が好ましい。

※以上委員には宣教司牧評議会委員以外の人がある。

注(1)各委員長、書記、会計を互選する。

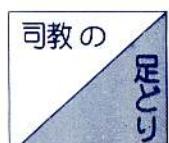
(2) メンバーは評議員以外の新しい人。

#### 各委員会の役割について

(1) 実行委員会

① 基本方針を決める。

尚50周年は教区民一人一人がその役割を分担する事。又50周年記念そのものが目的でなく、50年への歩みとそれ以後の取り組みが大切である事は言うまでもない。



12月

1日(日) FH婚約式司式。

3日 M氏と面談。教区内園長会議。

神学生志願者と面談。教区修女連代表と面談。

29日(日)西野繁治郎氏追悼ミサ(園部)辻信之氏葬儀ミサ(奈良)

28日 小山久木師葬儀ミサ(奈良)

辻信之氏(長浜カティック)

保育園長急逝。

27日

南京都司祭月例会。(西野氏葬儀、自宅)

26日 早朝小山久木師(マリスト会)交通事故死。西野師ご尊父繁治郎氏急逝。

25日

クリスマス。来客多。在日比人を中心とするミサと祝賀会。

24日

千客万来。第20回タブロー見学(洛星)。深夜Xマス司教ミサ。



——いろいろな所で司牧をしてこられたと伺っていますが、「まあ、2年2年でね、ぐるぐる廻つてきました。けれども、いろいろな物を見るチャンスを与えてくれたと思いますね。

ただ井の中の蛙でなしに、山を出てみて、はじめて山を見ることがありますしね。今、ふり返つてみると、私にとつては、とてもプラスになっています。」



# 一九八六年四旬節司教教書

## キリストと一緒に旅する神の民 福音宣教共同体として

京都司教 ライムンド田中健一

聖なる四旬節を迎えるに当つて、教区内のすべての信仰の仲間であるみなさん一人ひとりに、心から挨拶と祝福をお送りいたします。

### はじめに

「私は門の外に立ち、扉をたたいている」と私たちがミサの中で好んで歌う歌があります。誰が立つておられるのか、勿論キリストであります。しかし、またそれは教会に属していない人々をも意味するのではないかと思います。

最近、金持ちとラザロの譬話(ルカ16)を読みかえしながら、あの譬話の中でもキリストは何処におられただろうかと思つたりいたします。

さて、このようなことに思いを馳せながら、第二バチカン公会議によつて、再発見した「開かれた教会、社会の中に生きる教会」は、建物よりもキリストを中心として二、三人集まる所に出来上つてくる教会、更に現代において、貧しい人びとの中にある教会、彼らと共にすべてを分かち合う教会の事ではないかと思います。今、解放の神学が時々耳には

いろいろが、まさにこの点に立脚した教会を模索しているものだと思いません。

### 福音宣教共同体作りへ

日本司教団が発表した日本の教会の基本方針と優先課題は、信徒も司祭も修道者も司教も一つになって福音宣教共同体になるにはどうすればよいかとの問題提起したものと考えてよいと思います。

しかし、「福音宣教」「共同体」という同じ言葉を使いながら、まちまちの考えがあり、それが善意からのものであるだけに一層困難であります。

京都教区ビジョンを作る時もそれに苦心しました。多様性の時代です

から画一性を望みませんが、根本におけるキリストにおける一致は不可欠だと思います。教区ビジョンを共同で作成していく流れの中での対話の心を思い出します。それは妥協でも、折衷でもなく、相互理解と信頼を深めながら、一つの真理に向って一緒に歩むものだと思っています。

### 共同体について一、三の事

#### 福音宣教について

さて福音宣教共同体について、私の過去の教書も屡々触れて参りました

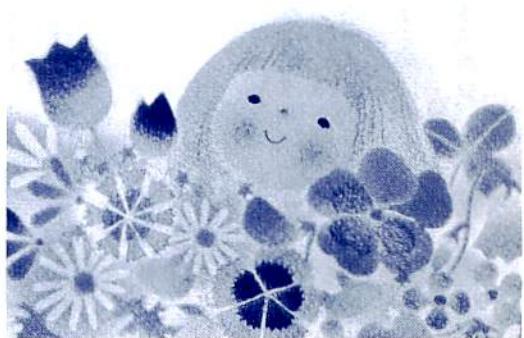
福音宣教について、基本方針でいわれる洗礼の数を目指すいわゆる布教派と、社会の福音化を目指す福音派に分かれるといわれます。私は信

た。今特に反省したい二、三の点を述べたいと思います。

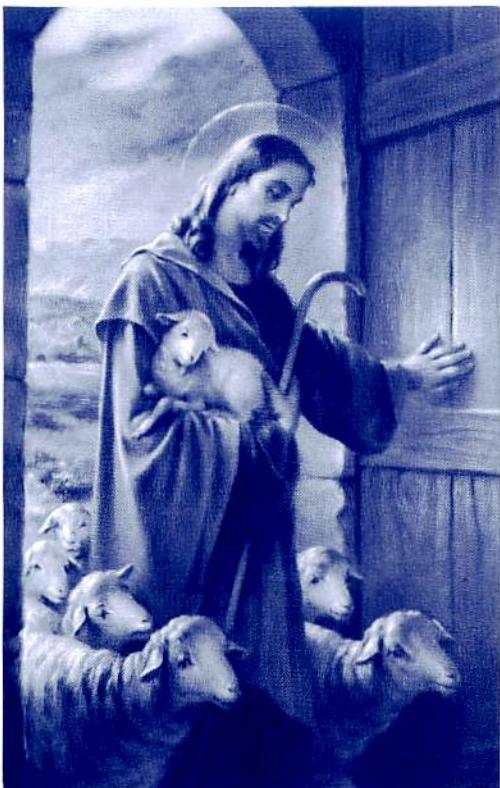
まず共同体とは、仲よし共同体ではなく、家庭的な集いがよく理想とされます。(又それが悪いと言う訳ではありませんが)少くとも閉ざされた、内向きの家庭では考え方直さねばならないと思います。そしておそらく個人の意義が曖昧にされる所で

は共同体の意識は育ちにくいと思います。やはり個、個性、個人の信仰が恵みと工夫によって確立されます。

私は一つの大きな反省を迫りたいと思います。私たちは小教区共同体を、又はグループを家庭的集いにしようと目指しすぎたのではないでしようか。だから教区エゴ、小教区エゴ、グループ・エゴのようなものが当然出て来たのではないかと思います。



絵 丸山明子



念と情熱と犠牲を払つて努力して下さつてゐるみなさんに、どちらが正しいということは申したくありません。只一ついえることは、現代の人々がかかえている生活の苦しみの深層に目を注ぐことなくして、キリストの福音は現代人の心の中に託身し得るであろうかという問題であります。

これが第二バチカン公会議の根本的な教会観、現代世界憲章の内容、

教区ビジョンのそれであり、解放の神学の土壤ではないかと思います。

聖書は来世の報いだけを説いてゐるのではなく、キリスト自身足もとの問題から取り組まれ、福音の神秘を託身させられました。

そこで、自分たちの住んでる近所を見廻し、その現状を把握しようといわれるのも大切な点だと思います。

教会は受け入れ共同体である反面、出かけていく共同体であるべきで

ご存知のとおり、「87年は京都教区創立50周年にあたり、それに加え福音宣教全国推進会議(NICEと略している)の第一回総会が予定されており、それらの準備に教会管区レベルにおいても懸命であります。まだこれらの意義や内容について詳しくお知らせしておりませんが、過去をふりかえる丈でなく、教区の在り方の見直し、未来に向けての再出發を考えなければならないと思つています。

### '87年に向けて

す。外に出た時、いわゆる小さな兄弟(マタイ25参照)のもとにキリストが先に到着されおり、私たちの到着を待つておられるのではないでしょうか。

### 適正配置と福音宣教共同体

更に緊急な身近かな問題も避けて通る事は出来ないと思い、取りあえず司祭評議会を中心にそのタタキ台のようなものが検討し始められていますをお知らせしたいと思います。それは司祭・小教区の適正配置という聞き慣れない言葉であります。少くとも福音宣教共同体になる為には、現在の小教区制度をも見直す必要があると思います。これは司祭の老齢化に伴う解決策と受け止められるかも知れませんが、それ以上に神の民、

なかなか信徒とは?という問題を煮つめていく時、根本的な要素になります。この為には相当の時間がかかると思いますが、信徒の皆さんとの対話の中の積み重ねによって整理していくことを願っています。

### おわりに

「キリストは門の外に立ち、扉をたたいている」その対象は内にいる私たちであり、開かれた扉を背にして歩まれるキリストの後に従うことが、私たちの解放、救いにも、福音宣教共同体の使命にも近づいて行く、旅する神の民の姿ではないかと思います。

みなさん一人ひとりの上に神の祝福・恵み・平和が豊かでありますように。

今年は国連の提唱する「国際平和年」でもありますので、例年の如く平和との取り組みを信仰の視点から捕えるため、「平和旬間」を企画、実践したいと思います。教皇様は元旦に「『平和』それは限りなく価値あるもの、東西、南北ひとつ<sup>正</sup>の平和」を訴えておられます。社会主義と人権の尊厳を政治・経済・社会・文化の分野でも学ぶ必要が急務だと思います。

平和は単に「心の平和」だけではなく、全人格的、社会的なもので、キリストの託身と復活に結ばれる福音と切り離すことの出来ないものです。贅沢が、エゴイズムが、貪欲が、無関心が平和を脅かし、崩して行く訳であります。これを精神主義的な反省に留めず、日々の回心に繋ぎ、正義、真理、自由、平等、愛の祈りと実践に移して行かなければならぬと思います。



絵 丸山明子

一九八六年二月二二日(灰の水曜日)

## 司祭評議会定例会議報告

## —適正配地について—

司教教書中にもある通り、今司祭団を中心に取り扱われて

いるこの聞きなれない問題は、小

教区の位置が福音宣教共同体とし

てふさわしいものかどうかを検討

しようと言うものである。これは

信徒の問題であり、信徒使徒職と

も深い関わりがあるので教区全体

の問題として取り組みたいと思う。

尚、教区時報12月号、教区すごろ

くも十分御利用いただきたい。

より具体的な取り組み方について後程、提案が出されるものと思

われる。

**大阪管区**（京都・高松・広島）信徒公聴会

「福音・宣教に関する信徒相互の話し合いの会」

日時 2月10日 pm 4～11日 pm 4

場所 東洋ホテル（大阪）

昨年日本の教会の基本方針と優先課題を発表し、その具体化の一歩として「福音宣教推進全国會議」（略称N.I.C.E.）を開設する計画である。

そこで87年の全国会議開催前に大阪管区内でその取り組みをはじ

めようと今回の集いが計画された。

この会は司教の考え方を聞くのでなく司教が神の民の声を「聴き活かす」事、又聖霊のみことばに心と耳を傾ける事から始めようと言

う事にある。

この会では、信徒の話をよく聞

き、現状を見極め、意見を出し合

い、分析し、整理した上で全国会議にもつて行こういうことである。

尚、出席者は各ブロックの責任者を通じて人選の依頼があるものと思われる。

## 司祭、修道士、修道女の集い

1月4日

恒例となつた聖職者の新年の集いが1月4日10時より田中、古屋、小林司教を中心に教区の司祭達が共同司式する中で行われ、司教は教皇の新年の平和メッセージ、今年行われる大阪管区信徒公聴会、秋に東京で開催されるアジア司教會議の事に言及しながら、神の民一がんとなつた福音宣教の取り組みの必要性を力説した。

続いて、齊木師の司会で立食パーティに移り楽しい時を過した。

地上に平和が來たつて、地下には平和なんてありやしない。使いものにならなくなつた廃棄物のゴミ捨て場。私達の生きる所はありやしない。大気汚染はまぬがれても、地下汚染はますますつる。取られるものだけは取られ、捨てられるものだけは捨てられ、

げまする。

地下からも平和をお祈り申し上

もぐらもぐもぐ もぐらの寝言

もぐりもぐもぐ もぐらの寝言

寝言ごとごと もぐらの寝言



瀕死の病人が針のむしろに横たえられりや、地下は平和ではありますせん。コンクリートと重たい高層ビルにますます耐えられなくなり、

あとはもう肩の荷を落して地上のかしこいお方々を呑み込むか、

時々怒り心頭に達して爆発するの

み。地上には反省と改心のき

ざしあり。はたまた対話の呼

び声あり、だけど天上と地下に對話の呼びかけをまだ受け

てはおりません。いや失礼しました。

## もぐらの寝言

まつた。

もぐらもじもじ もぐらの寝言  
もぐらもそもそ もぐらの寝言  
寝言ごそごそ もぐらの寝言



## お知らせ

▼結城神父講演会

▼日本二十六聖人  
「長崎への道」巡礼

日時 2月15日(土) PM2時~4時

場所 京都カトリック会館 6F

講師 結城了悟神父 (日本二十六聖人記念館館長)

演題 「京都から長崎へ行った26聖人」

主催 京都キリストン研究会

(無料)

▼皆さんありがとうございます!!

タイ王国ウボン教区に届けます

ウオーカーソン募金(奈良・京都)

金七、六一五、八九二円でした。

皆様の御協力に感謝します。

★御ミサもあります。信者、未信者を問わず参加歓迎。詳細は、甲学院 本田周司まで Tel 0778(871)4161

京都地区は聖母学院 三牧まで Tel 0720(31)1381

◇第26回巡礼

日時 3月21日(金)~23日(日)

コース 海老津(又は赤間)→古賀→和白→志賀島→船で博多→前原まで

〆切 3月5日必着

持展品 ロザリオ、雨具等用意

春日秋月君を抱けや。日と月が出しまる明るさ。二つの光を(MT)

会が発足したようですが、五十周年が今後への前進の手がかりになりますように。人生と同じで、年

月の長さより内容こそが大切。(Y)

◆シニシント音まで聞えそうな冷えこみ。雪も例年なく度々やつてくる。寒い季節にウンと寒いのはかえってさい先よしか。(Y)

◆ぽんと落した小さな雪の輪が静かに広がつて。教会を越えた話が大きくなれと祈ります。平和の和になれと祈ります。

◆ぼんと落した小さな雪の輪が静かに広がつて。教会を越えた話が大きくなれと祈ります。平和の和になれと祈ります。

(よ)

◆市内の底冷えの厳しさにビックリ、手には霜焼け、いい事なし。

◆ユーワツだなあ、今月もおく

れそう。ふと窓の外を見ると白いものが…。心も冬の空。

編集女は頑張っているのですがね。(K)

4月から新しくスタート

## 聖書が好きになる講座

—あなたも宣教者になろう—

### 京都南部の皆さん

あなたのための講座です。

やる気、熱意のある人、若者も大歓迎。



4月から始まるこの講座は、毎週1回(木曜日・夜コース)6ヶ月間(全18回)。学び、わかち合いながら、キリストを言葉と行いで伝えることを研修します。講師は京都南部の神父様方です。この機会にあなたに語りかけられている言葉に耳を傾けてみませんか? 参加を心よりお待ちしています。

▼場所カトリック会館▼費用4,500円▼定員各

18名▼主催聖書使徒職委員会▼申し込みなど詳しきは各教会の募集案内をご覧下さい▼お問い合わせ 教会主任司祭、又は教理センター(752-0057)まで。

おめでとうございます。

7月8日

ペトロ 山田 右神父

ジョン・ウォルシュ神父

24日 司祭評議会

銀祝

研宗館

12日 灰の水曜日  
小寺ビル 四条堀川(協議)  
15~16日 CBS(日本カトリック・ボイスカット指導者会議)  
16日 教区指導フォーラム(洛星)

17日 奈良司祭集会(大和郡山)  
18日 京都南部司祭集会  
19日 SVP京都中央理事会  
20日 京都北部信連総会  
21日 京都南部司祭集会  
22日 修女連地区別研修会  
23~24日 三重地区祈りの日(津)

### 教区スケジュール

2月

9日(日)衣笠教会堅信式

日本26聖人記念ミサ(於

小寺ビル 四条堀川)

12日 灰の水曜日

15~16日 CBS(日本カトリック・ボイスカット指導者会議)  
16日 教区指導フォーラム(洛星)

17日 奈良司祭集会(大和郡山)

18日 京都南部司祭集会  
19日 SVP京都中央理事会  
20日 京都北部信連総会  
21日 京都南部司祭集会  
22日 修女連地区別研修会  
23~24日 三重地区祈りの日(津)

